

ふくい社会福祉

1
No.377



温故知新 ～一途に社協道～

子育てををするなら「福井」

作家 宮下 奈都 さん (福井市)

大学進学のために上京し、十年以上、都会で生活をしました。

福井に戻るきっかけは子育てで、以前から、子育てをするのであれば田舎、できれば、「福井」でと考えていました。

自然の多さ、静かさ、地域のつながり、治安の良さなどがその理由です。福井には子どもを安全・安心に、そして、健やかに育てることができる環境がそろっています。東京出身の夫も、福井の暮らしやすさがとても好きになったようです。空気も水も食べ物もおいしくて、子どもたちがのびのびして。都会での生活を経験したからこそ言えることです。

小説を書き始めたきっかけは、三人目の子がお腹にいたとき、自分の人生への焦りを感じたことにあります。まだ、私の人生には時間があると思っていたのに、いざ育児を始めてみると多忙で自分の時間を持つことができないと痛感しました。そこで、子育てをしながら何かできることはないかと考えたのです。もともと文章を書くことが好きだったので、「いつか小説を書いてみよう」とは思っていました。「いま書かなければ一生書けない!」と、「文学界」の新人賞に応募し、賞をいただきました。このことがきっかけで小説家としてデビューすることとなりました。

執筆活動は、日中のまとまった時間に自宅で書いていますが、子育てと家事をしながら、これからも福井の暮らしの中で書けることを自分なりに書いていこうと思います。

プロフィール

1967年、福井県生まれ。上智大学文学部哲学科卒業。2004年、「静かな雨」が文学界新人賞佳作に入選。07年、初の単行本『スコアNo.4』が話題を呼ぶ。ほか著書に『遠くの声に耳を澄ませて』『よろこびの歌』『太陽の Pasta、豆のスープ』『田舎の紳士服店のモデルの妻』など。最新刊は『誰かが足りない』。

平成23年12月 福井県文化奨励賞 受賞



平成24年 新年の抱負

民間社会福祉団体より

「民間の力を結集し、福井のふくしを創る」

福井県老人福祉施設協議会

会長 木村 洋子



新年あけましておめでとございます。

昨年、東日本大震災をはじめ、台風、豪雨と大災害続きの年であり、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、県社協職員の皆様をはじめ、多くの県民、そして当協議会の会員施設職員も被災地へのボランティアに参加していただき感謝申し上げます。ともにあらためて日本国民の絆の強さ、優しさを知る一年でありました。一日も早い復興をご祈念申し上げます。

さて、高齢者福祉、介護の現場は今、たくさん課題をかかえています。介護人材の確保、ご利用者の重度化、認知症ケアなどこれからも超えなければならぬハードルは多くございます。当協議会は会員一同、質の向上を目指し、さらなる研修の場を設け、県民に愛される施設作りを進めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いたします。

福井県社会福祉施設経営者協議会

会長 白藤 昭武



皆様、ご健勝で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、我々施設を取り巻く社会福祉法人制度は近年、目まぐるしく変遷を遂げようとしております。年金の受給年齢引き上げや、若年・障害者及び高齢者の雇用問題。失業を含む貧困の問題。そして、消費税の引き上げ。社会保障と税の一体改革が進み、又、地方分権改革による許認可等、地方への委譲も言われております。これらは、社会福祉法の見直しに直結する問題でもありますので、皆様方のご協力をお願いいたします。新年の挨拶とさせていただきます。



福井県民間保育園連盟

会長 竹内 文憲



少子高齢化社会と言われて久しく、今や人口減少社会になりつつ

あり、日本の将来を考えたとき多くの問題があります。とりわけ、保育に関しても国会において幼保一体化や地方分権について種々議論がなされており、今後どのように図られていくのか大きな関心を寄せるところであります。連盟としても関係機関のご指導のもと対策を講じ、会員一丸となり国、県に要望して参りたいと思っております。

福井県児童養護施設連絡協議会

会長 木越 直昭



「寄り添う」という言葉を、昨年はよく耳にした。私が関わりをもつ

子どもたちは、いろいろと形を変えて我々大人に「助け」を求めてくる。当然、大人の側から近づかなければ、何ら助けにならないことは言うまでもない。現場に身を置く者として、今年は一歩踏み込んで、「寄り添いつづける」という心の強さを持ちたいものだ。

福井県身体障害者(児)援護施設連絡協議会

会長 山口 利明



謹んで新年のご祝辞を申し上げます。

昨年は大災害が続き、社会福祉協議会は大きな役割を果たされた一年であったことと拝察いたしております。新しい年を迎え、災害のない平穏な良き年でありたいことを念じて止みません。障害者施設では新体系事業への完全移行が求められる区切りの年でもあり、心を新たに取り組みを進めてまいります。

今後とも当協議会の活動にご支援・ご指導を賜りますとともに県社協の地域福祉活動の更なるご活躍を期待申し上げます。

福井県社会就労センター協議会

会長 朝日 正幸



昨年8月に、障害者自立支援法に変わる新法「障害者総合福祉法」の骨格提言が総合福祉部会でとりまとめられ、この提言をもとに厚労省が法案化し、25年8月の成立を目指しています。

どのような法律が施行されるか期待するところではございますが、社

会就労センター協議会は、障害のある人たちが「働く・くらす」を支援していく福祉サービスのスタンスを明確にし、実現に向けて取り組み、さらにタイムリーな活動を展開して参りたいと思います。



福井県デイサービスセンター協議会
会長 小川 弥仁

龍の勢いのある年でありますよう、ご祈念申し上げます。

今年介護・医療制度改正等、社会保障制度が大きく変化していく年となっております。

私たち協議会も微力ながら地域福祉推進の為、社会変化・地域ニーズに柔軟に対応できるように頑張つて参りますので、よろしくお願い致します。

福井県地域包括・在宅介護支援センター協議会

会長 池端 幸彦



悪夢のような昨
年の大震災、大津
波そして原発事
故。まだまだその

爪痕を残してはいるが、いつまでも立ち止まってばかりもいられない。

今年、介護・医療同時改定の年。もう一度美しい日本を取り戻し、住み慣れた地域で暮らし続けるための地域包括ケアシステム構築に向けて、関係団体と手を取り合い頑張る覚悟である。



福井県知的障がい者福祉協会会長
NPO 福井県セルフ振興センター理事長
山崎 宇左工門

家族そろってご健勝でお正月を迎えられたことと存じ、お慶びを申し上げます。

今年の干支は、辰にあたります。

辰年にちなみ、少しでも尊厳に満ち、男女しくふるまい真理の道を極めたいと思います。しかしながら真理を知ると云うことはかなり困難で、与えられた課題を一つ一つ真摯に受けとめ、今年も地域福祉の向上に貢献したいと考える次第です。



福井県母子寡婦福祉連合会

会長 島 邦子



一昨年は60周年記念大会一色に塗りつぶされました。次の70周年に向けての新たな年度が始まりました。「つなごう人の輪、広げよう地域の輪」をスローガンに、お互いに手と手を繋ぎ合って活動の輪を広げて参り、未来を担う子ども達が健やかに心豊かに育つことが出来るためにも、母子寡婦福祉の向上に全力を挙げて努力してまいります。

福井県身体障害者福祉連合会

会長 吉村 春男



昨年は3月に東日本大震災という未曾有の被害に見舞われ、今なお被災地のみならず日本全体が復興に向けて頑張っているところですが、社協の重要性も浮き彫りになった1年となったのではないのでしょうか。

福祉とは、障害のある人もない人も、安全で安心して暮らせる社会づくりが求められています。

当連合会としても、福井県社会福祉協議会をはじめ関係機関や各種団体と連携を密にしながら、障害のある人達も積極的な社会参加が出来る

よう取り組んでまいりたいと思います。

福井県老人クラブ連合会

会長 坂野 良治



本県はすでに4人に1人が、65歳以上の高齢者で、年々増加しています。

高齢者が元気で長生するにはどうするか、地域で健康づくり・介護予防に取り組んでいる老人クラブに加入していただき、自分にあつたスポーツやいきいきサロンなどで活躍されることです。そのため会員の加入推進が、今年の抱負です。

福井県心身障害児者福祉団体連合会

会長 納村 亮



混乱する政治の中であるが、高齢者・障害者が「安全で安心な暮らし」ができるよう、更に研鑽し、共に努力を重ね高福祉を実現させるために社会福祉協議会の役割は広く重いものであるが、当連合会としても関係機関と連携をとりつつ頑張りたいと気持ちを新たにしております。

人としての尊厳・人格の尊重と
言った「権利擁護」「虐待防止」「成年後見」など、各分野の体制の整

備を願いつつ、新たなる年度を迎える登り龍の今年こそ、更なる福祉の向上を目指してまいりたいと思います。

福井県婦人福祉協議会

会長 細川 豊子



2012年の新春を迎え、心新たに「婦人(女性)の福祉の向上」を第1に、「健康と食育」の大切さを根幹におき、活動を充実していきたいと考えています。

さらに稀薄になりつつある人と人との絆を大切に、会員同士の友愛を深め、「優しさ、思いやり、感謝の言える地域社会づくり」の活動をしていきたいと考えています。



福井県ホームヘルプサービス事業者協議会

会長 田原 薫



本年は、介護保険法の報酬改定や障害者総合福祉法の法改正など、周

辺環境は昨年に引き続き大きな変化が予想されます。また併せて、人材不足・担い手不足など従前からの深刻な課題も引き続きあるかと思われませんが、他の関連団体とも協力して、少しずつでも声を上げ続けていく活動を行いたいと考えています。本年も、当協議会の活動にご協力をお願いいたします。

福井県視覚障害者福祉協会

会長 小山 尊



新年あけましておめでとうございます。当協会では、平

成24年4月から「グループホーム及び障害者地域活動拠点施設」を運営いたします。

視覚障害者の自立と社会参加促進との取り組みを行い、利用者が不安なく心豊かに毎日を過ごすことができる障害者地域活動拠点施設、また、快適且つ安全安心して毎日の生活が送られるグループホームの二つを併設した新しい

施設(2階建鉄骨造 延べ床面積507.36㎡)です。

平成24年度当協会は、この新しい施設の充実を図り、福祉向上のため様々な取り組みを行う拠点施設として、尚一層の福祉向上を目指して参りたいと存じます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

福井県手をつなぐ育成会

理事長 栗田 幸雄



明けましておめでとうございます。新たな年を迎え、障がい者福祉の一層の充実を目指し、活動展開をしたいと存じます。

当会は、昨春に起こりました未曾有の災害を教訓に、当事者の安否確認と救援支援のシステム構築を軸に災害弱者である障がいのある人の安全と安心を確保し、地域社会でのあたりまえの暮らしを一日も早く実現したいと考えております。

特に知的に障がいがある人は、災害時には孤立を深め支援者の手が届きにくい現状が浮き彫りになりました。

育成会では、会員の情報を集め、個々の暮らしを安全に確保する有意義なデータセンターとして当会の発展を目指しております、皆様のご理

解と篤いご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

福井県聴力障害者福祉協会

会長 丸山 継男



聴覚障害者の情報アクセス・コミュニケーションと、手話を言

語として認める社会的な理解と法律の制定を目指し「みんなで作る手話言語法」の運動を進めています。当協会では災害時の保障の意義も含め、ろう者が豊かに生きる権利を守るため情報提供施設の早期設立に取り込んでいます。本年もご指導ご支援を賜りますよう宜しくお願い致します。



「ふくいつながりフェスタ2011」

地域福祉の推進に邁進し今年で60周年を迎えた福井県社会福祉協議会。前号に引き続き、今号では11月12日(土)～13日(日)に開催した「ふくいつながりフェスタ2011」の各種イベントの開催状況をご報告します。

福井県産業会館 1号館展示場でのイベント

ミニ電車コーナー



たくさんのちびっこにご乗車いただきました。



福祉機器展示コーナー

最新の福祉機器や車いすで乗車できるバイクなど、来場者の関心を集めておりました。



ご当地グルメ試食、特産品・セルフ商品即売コーナー

県内各市町のご当地グルメの試食やご当地特産品・セルフ商品東日本被災地支援商品の即売コーナーは、行列がでるほどのにぎわいでした。



ボランティア活動紹介・体験コーナー

県内で活動するボランティアグループの活動紹介や来場者の方実際に体験していただきました。



笑顔の写真展

笑顔の写真パネル展には、素晴らしい笑顔の写真を県内各市町社会福祉協議会から提供していただきました。



福井県産業会館 2号館展示場でのイベント

巨大エコキャップアート

会場入口には県民のみなさんに参加していただいて作成した巨大エコキャップアートを展示しました。



エコキャップアートコンテスト

県内63チームがエントリーしたエコキャップアートコンテスト。今年も素晴らしい作品が勢揃いしました。



ニュースポーツ体験コーナー

子どもから高齢者まで幅広い世代に楽しめるニュースポーツを体験していただきました。



ランティーマも大人気でした。



福井県社協 60年のあゆみパネル展

福井県社協 60年間の歴史をたどったパネルを展示しました。



つながりステージ

県内の社会人チアリーディングチーム「WENDYS」によるチアリーディングショーや「みんなで舞台上に立とう」「そんな街いいな合唱団」による音楽ステージを楽しんでいただきました。



福井県産業会館屋外展示場でのイベント

電気自動車試乗コーナー

来場者の方に環境にやさしい電気自動車に試乗体験していただきました。



乙武洋匡氏 記念講演会

12日 13:00 ~ 14:10

初日のメインは、『五体不満足』の著者として有名な乙武洋匡さんの講演会。開催前からたくさんのお問合せをいただき、会場は超満員となりました。ご自身の経験・体験談からさまざまなお話をされ、来場者の方の感動を呼びました。



3兄弟ユニット『一途』ミニライブ

13日 15:00 ~ 15:30

フェスタの最後を華やかに飾っていただいたのは、鯖江市の3兄弟ユニット『一途』さんのミニライブ。楽しいトークと東日本大震災に丸となって努力を続けている皆さんへの応援歌や被災地の方々にエールを送る歌など、3人の力強い迫力あるステージでした。

そして、ラストは、県社協のテーマソングを初披露していただきました。



《福井県社会福祉協議会のテーマソング・プロモーションビデオが完成しました。》

創設 60 周年を迎えたのを機に、「ふくし」やみんなが「つながっていく」ことの素晴らしさを沢山の皆さんと分かち合うというコンセプトのもと、3兄弟ユニット『一途』さんの全面協力でオリジナル曲「Welfare ~ ふれあって、つながって、輪になって」が完成しました。

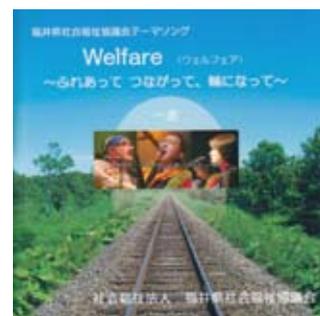
併せて、県内 17 市町社会福祉協議会の協力を得て、県民の皆さんの素晴らしい笑顔とこの曲を合わせたプロモーションビデオも完成しました。

Youtube で 11 月 13 日のつながりフェスタでのライブ映像にてこの曲をお聴きいただけます。ぜひ一度ご覧ください。

※一途オフィシャルホームページよりご覧ください。

<http://www.1zu.jp>

お問合せは、総務企画課まで。



「記念式典」で特別功労者を表彰

式典は、60年の歴史を振り返るDVDの上映からスタート。物故者への弔慰黙祷、村上哲雄県社協副会長による「開会の辞」、清川忠県社協会長による「式辞」に続き、長年県社協の組織運営にご尽力いただいた次の方々への特別功労表彰式が行われました。

その後、西川一誠県知事、県選出国会議員をはじめとする来賓の方々からご祝辞をいただき、齋藤多久馬県社協副会長の「閉式の辞」をもって式典を終了しました。

「特別功労者表彰」受賞者 [7名]

- | | |
|----------|-----------|
| ◆ 黒川 誠一氏 | ◆ 関 捨男氏 |
| ◆ 吉岡 幸一氏 | ◆ 山下 末吉氏 |
| ◆ 久我 元氏 | ◆ 郡谷 いさを氏 |
| ◆ 河野 浩氏 | |



京極高宜氏「共生社会」を語る



「記念式典&感謝の集い」に先立って、若狭小浜藩主京極高次の後裔にあたる京極高宜先生（国立社会保障・人口問題研究所名誉所長、全社協・中央福祉学院長）による記念講演が行われました。

講演では、「共生社会」の考え方に関する話のほか、福井ゆかりの京極家にまつわる興味深いお話をいただきました。

「創設60周年記念式典 & 感謝の集い」

共に歩んだ“いっぽいっぽ”に感謝

前週の「ふくいつながりフェスタ 2011」に続き、これまで県社協を支えていただいた多くの皆さんへの感謝の気持ちを表すため、「記念式典&感謝の集い」（11月19日）を開催しました。



決意も新たに…「創設60周年宣言」

感謝の集いでは、これまでの“いっぽ”、これからの“いっぽ”を噛みしめつつ、改めて「県民のしあわせづくり」という『社協道』に邁進する決意を表すため、県社協の田島雄二主査、青柳千里主事の二人が宣言文を読み上げ、参加された皆さんに賛同をいただきました。



関係者が親交を深めた「感謝の集い」

式典に続いて、知事や県選出国会議員をはじめ、日ごろから県社協の運営にご協力いただいている福祉団体や市町社協の役職員、県社協OB・OG職員、県社協理事・評議員が一堂に会した「感謝の集い」が開かれました。

伊藤靖朗県社協副会長の挨拶で始まった集いは、国会議員や種別協議会会長等の祝辞、鏡割り、万歳三唱などを行い、品谷義雄県社協専務理事の謝辞をもって終了しました。

終始和やかな雰囲気と皆さんの笑顔が溢れる集いとなり、60年間に積み上げたネットワークの大切さを改めて実感するひと時となりました。



新年のご挨拶



社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
社会福祉法人 福井県共同募金会
福井県民生委員児童委員協議会

会長 清川 忠

2012年の新春を迎え、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年は3月11日の東日本大震災、夏から秋にかけて各地で発生した水害など、日本中が災害に見舞われた一年となりました。

しかし、災害支援活動に取り組む多くの国民の姿やかつてないほどに寄せられた義援金など、日本中が一体となって復興に取り組む姿には感慨深いものがありました。

このように「困っている方がいたら手を差し伸べ、互いに助け合おうとする姿」は、福祉の原点であると改めて痛感いたしました。

さて、昨年は本会創設60周年の節目の年ということで、「記念式典」、「ふくいつながりフェスタ2011」、「60周年記念誌」の発行など、さまざまな記念事業

を実施してまいりました。改めて、記念事業の実施にあたりご協力を賜わりました多くの皆様方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

創設61年目を迎える本年は、昨年掲げたテーマ「しあわせ紡いで60年 感謝（ありがた）そして出発（はつち）」のとおり、これまで本県の社会福祉の向上に尽力された先人達の情熱と努力を忘れず、県民の一人ひとりが「ふだんの ぐらしの しあわせ」を実感できるよう、新たな一歩を踏み出してまいります。

本年も皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
副会長 村上 哲雄

年頭にあたり一言ごあいさつを申し上げます。昨年は東日本大震災をはじめ、

大災害が続いた年でした。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

近年では社会福祉を取りまく環境が大きく変化し、様々な問題が顕在化しています。このような課題を真摯に受け止め、本県の地域福祉の推進機関として、創設

61年目を迎える本年も、「従藍而青（じゆらんにしよう）を基本に、県民、関係団体とのネットワークで、「福祉のまちづくり」に努めてまいりますので、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
副会長 齋藤 多久馬

2012年の新春をお迎えたことお祝い申し上げます。

除夜の鐘を聞き、初詣に赴かれた方も多かったと思いますが、この伝統は新年に望んで、この一年努力することを誓う心から来ています。人類は困難を工夫で乗り越え、将来を今まで以上に良くしたいと願いつけて来ました。困難に遭遇して、内向的に、自閉的にあきらめ、逃避することなく、今年も「いっぽいっぽ」問題の解決に向かって努力して行きたいものです。



社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
副会長 伊藤 靖朗

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

昨年、未曾有の「東日本大震災」の大きな災害を受け、尊い命が亡

くなりました。本当に悲しい出来事です。今、国民を挙げて復興に向け歩み始めました。又、折しも福井県社会福祉協議会は、創設60周年の記念すべき、節目の年でもありました。

「がんばろう 日本」

このスローガンのもと、今年は福祉の原点に立ち返り、「地域福祉」の向上を目指し、努力してまいりたいと思います。

どうか、本年も皆様方の温かいお力添えを賜りますよう。心からお願ひ申し上げます。



社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
専務理事 品谷 義雄

昨年は困難とも言うべき東日本大震災や大雨災害などで日本中が

苦しめられました。

我々人間は大自然の前では、いかに弱く小さな存在であるかを改めて思い知らされた悲しい年でした。

しかし、今年は謙虚な心と昇龍の勢いで大きく羽ばたいていけたらと思ひます。

今年が日本の国と人々にとって希望の持てるすばらしい一年となることを強く祈念いたします。

福井県社会福祉協議会も61年目を迎えました。地域福祉の向上に向けてより一層精進を重ねてまいります。